

## 第5・6学年 国語科学習指導案

日時：平成17年10月7日第3校時  
 場所：高根小学校 5・6年教室  
 授業者：下谷 清浩

### 1. 教材名

【5年生】詩『大地』 【6年生】詩『希望』

### 2. 教材について

5年生の詩『大地』は、「～さかせ」「～光らせ」「～鳴かせ」による言葉のリズムや、「花や鳥に負けない物を作って太陽や大地にプレゼントをしよう」という言葉に、人の創造力の可能性を信じる作者の思いが読み取れる作品である。

6年生の詩『希望』も、対句表現や比喻表現の繰り返しによるリズムや、たくさんの夢で地球を光らせたいという作者の思いが読み取れる作品である。

両教材とも、下巻のとびらの詩である。音読したり話し合ったりすることによって作者の思いを明らかにすると共に、後期の学習への意欲化につなげたい。

### 3. 研究とのかかわりについて

#### ① 指導援助のあり方

基礎基本としての詩の内容を読み取る力をつけさせるためには、表現に基づいてどう読んだか交流することが必要である。ところが複式授業の場合、2学年同時に学習するため直接指導できない場面が現れる。総合的に国語の力を伸ばそうとする国語科の特性から、単元指導計画でのずらしは困難であり、単位時間内でのずらしを考えなくてはならない。

そこで本時のように、5年生と6年生の話し合いの場面をずらすことで、それぞれの話し合いに教師が関わり、ねらいに迫れるような焦点化した話し合いを組織できると考えた。

#### ② 学習活動の工夫

「味わう」を「表現のよさ」と「作者の見方考え方のよさ」の2つの側面にとらえる。言い換えれば、内容を理解し作者の見方考え方のよさを感じつつ、言葉の響き、リズム、適正さなど、表現のよさを感じ取って、鑑賞しながら読むようにすることである。

そのためには、繰り返し音読することが大切である。そこで、本時でもリズムのよさや詩の内容を具体的に話し合い、十分鑑賞したうえで音読させることでより深く味わえるものとする。

#### ③ 学習集団の育成

昨年度は、単元の学習について「国語の授業の進め方」をラミネートし下敷きにして見通しを持たせてきた。また、単位時間の流れは、学習プリントに示し、それに従って学習リーダーを中心に自分たちで授業を進めるようにしてきた。

今年度、単元の学習の見通しについては、教科書が改訂されて教材の最後にある「学習」がずいぶんよい手引きとなったので、それを活用している。また、学習プリントも有効だが、ノートの活用が難しいという課題が残っていた。そこで、今年度は授業の流れを板書することで見通しを持たせ、学習内容をノートにまとめることとした。また、主体的な学びを成立させるために、学習リーダーを輪番制にして、どの子も国語の授業の流れを見通せるように指導している。

本単元でも、学習リーダーを中心に学習が進められることを期待する。

### 4. 本時のねらい

**5年生** 「～さかせ」「～光らせ」「～鳴かせ」などの繰り返しのリズムを意識して音読したり、太陽や大地に「負けない物を作ってプレゼントをしよう」について具体的に話し合ったりすることで、表現のよさを味わうとともにいろいろなものを豊かに創造していこうという作者のメッセージを読み取ることができる。

**6年生** 対句表現や比喻表現の繰り返しによるリズムを意識して音読したり、「たくさんの夢」についてひとりひとりの夢を語り合ったりすることで、表現のよさを味わうとともに希望をもって生活しようという作者のメッセージを読み取ることができる。

### 5. 本時の展開

	5年生の学習活動	教師の指導	6年生の学習活動
つかむ	○今日の課題を確認する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;">詩「大地」を読み、表現のよさや詩に込められた作者の思いを読み取ろう。</div> ○詩「大地」を視写する。 ○詩「大地」を音読する。 ○自分の感想をノートにまとめ、詩のイメージを自分なりに持つ。	← 学習リーダーに本時の課題を打ち合わせしておく。 ← 本時の学習活動を板書しておく。	○今日の課題を確認する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;">詩「希望」を読み、表現のよさや詩に込められた作者の思いを読み取ろう。</div> ○詩「希望」を音読する。
ふかめる	○詩「大地」の表現のよさや作者の思いについて話し合う。 ・ 「～さかせ」「～光らせ」「～鳴かせ」のリズムによる表現のよさ ・ 太陽や大地にその恩恵に負けないプレゼントをしようとは、いろいろなものを豊かに創造していこうという作者のメッセージ ◎「プレゼント」とは具体的に何か話し合う。	→ 表現のよさを感じるとともに、作者の見方考え方を話し合うように指示を明確にする。6年生から話し合いに入る。 ← 詩の内容をより詳しく説明したり、自分に結びつけて話したりしている姿を価値づける。	○自分の感想をノートにまとめ、詩のイメージを自分なりに持つ。 ○詩「希望」の表現のよさや作者の思いについて話し合う。 ・ 対句表現や比喻表現の繰り返しのリズムによる表現のよさ ・ たくさんの夢で地球が光っているとは、希望をもって生活しようという作者のメッセージ ◎「たくさんの夢」について、ひとりひとりが夢を語る。
まとめる	○詩「大地」の表現のよさや作者の思いを感じて、どこをどんなふうに読むか明らかにしながら音読する。 ○友だちと音読したり話し合ったりして感じた詩の感想を書き、発表する。 ○次の評価の観点で自己評価をし、次時の課題を確認する。 A…「～かせ」のリズムのよさに気づき、豊かに創造していこうという作者のメッセージを読み取れた。	← 言葉のリズムや響きを味わわせるために音読させる。 ← 音読したり話し合ったことで表現のよさや発想のおもしろさに気づけたという感想を発表している児童の姿の良さを価値付ける。 ← 自己評価がBやCの児童には授業後個別に指導する。また、表現に着目する力の弱い実態があれば次の活動に生かす。	○詩「希望」の表現のよさや作者の思いを感じて、どこをどんなふうに読むか明らかにしながら音読する。 ○詩「希望」を視写し、読み取った内容をまとめる。 ○友だちと音読したり話し合ったりして感じた詩の感想を書き、発表する。 ○次の評価の観点で自己評価をし、次時の課題を確認する。 A…対句や繰り返しのリズムのよさに気づき、希望をもって生活しようという作者のメッセージを読み取れた。